

本資料は、報道関係者を対象としています。医療現場や一般の方々を対象とした医学的な情報提供や、プロモーションが目的のものではありません。なお、これらの資料は配信時当初の情報が掲載されており、最新の情報が反映されているとは限らないことをご了承ください。

報道関係各位

2025 年 9 月 17 日

RSウイルスに感染した子どもを介護する保護者の負担に関する分析結果が科学誌「Cureus」に掲載

-予防の重要性を示唆する貴重な情報-

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:岩屋孝彦、以下「サノフィ」)は、RS ウイルスに感染した子どもを介護する保護者の負担に関する分析結果が科学誌「Cureus」に掲載されましたのでお知らせします。

掲載号	Cureus 17(9): e91502 Caregiver Burden Associated With Respiratory Syncytial Virus (RSV) Infection in Young Children in Japan Cureus
タイトル	Caregiver Burden Associated With Respiratory Syncytial Virus (RSV) Infection in Young Children in Japan
著者	Noto S, Shimizu N*, Morishita A (September 02, 2025)

*サノフィ社員

RS ウイルスは、感染した赤ちゃんだけでなく、介護する家族の生活にも影響を与える可能性があります。これまで、RS ウイルスに感染した子どもを介護することによる家族への影響についての研究は少なく、十分にわかっていませんでした。そこで本研究では、日本の文化的な背景もふまえながら、介護者の体験を詳しく調べることを目的としました。

この研究の対象は、1 歳未満で RS ウイルスに感染した子どもの母親と父親で、介護者として患者パネルを通じて募集しました。介護者とは、RS ウイルス感染中に子どもを直接ケアした人と定義しています。RS ウイルス感染の有無の判断は、医師の確認/診察がなくても、介護者の申告をもとにしました。

まず、介護者にインタビューを行い、重要な考え方や質問項目を整理しました。その後、2023 年 9 月に最終的なアンケートを実施しました。アンケートでは、感情面・身体面・経済面の影響に加えて、仕事への影響や働く意欲についても調べました。

合計 309 人(内訳:母親 189 人、父親 120 人)の介護者を調査した結果、多くの介護者が、子どもが RS ウイルスに感染した後、睡眠時間が減少し、体調が悪化したと回答しました。父親の約 40%(53 人)は、仕事による時間の損失が最も大きかったと感じており、母親の約 30%(61 人)は家事による負担が大きかったと答えました。

両親とも、子どもが苦しむ姿を見ることに精神的な負担を感じており、症状や状態に対する不安も強くありました。働いている介護者(235 人)の 60%以上(148 人)は、仕事の調整が必要になり、休みを取ることや取れないことによるストレスを感じていました。また、60%以上(145 人)が、仕事に対する考え方が変わったと答えました。

特に注目すべき点は、父親の約 48%(58 人)が「自分が主な介護者だ」と感じていたことです。これは、日本の伝統的な育児における性別の役割分担を考えると、意外な結果と言えます。

これらの結果は、RS ウイルス感染が家族に与える影響を理解するうえで重要であり、予防の大切さを示す貴重な情報となります。

本論文の筆頭著者である新潟医療福祉大学リハビリテーション学部 教授 能登 真一 先生は次のように述べています。

「このたび、RS ウイルスに感染した子どもを介護する保護者の負担に関する分析結果が科学誌「Cureus」に掲載され、RS ウイルス感染症予防の重要性を示唆する貴重な情報が得られたことを嬉しく思います。国の厚生科学審議会で赤ちゃんの RS ウイルス感染症予防を定期接種に組み入れることの妥当性が議論されていますが、今回得られた結果がその一助となることを期待します」

単回投与の長期間作用型のモノクローナル抗体製剤であるベイフォータス®(一般名:ニルセビマブ(遺伝子組換え))が 2024 年 3 月に承認されましたが、保険適応は主に早産児・基礎疾患のある小児を含む、より重症化リスクの高い小児のみに限られています。ベイフォータス®へのアクセスの実現により、すべての赤ちゃんが RS ウイルス感染症から守られる環境の実現を目指し、サノフィはさまざまなステークホルダーと連携していきます。

以上

RS ウイルスについて

RS ウイルスは、新生児、乳幼児および低年齢の小児の下気道感染の最も一般的な原因とされており、世界的には 2019 年に 5 歳未満の小児のうち 3,300 万人が RS ウイルスによる下気道感染を発症し、360 万人が入院したと推定されています¹。日本においても乳幼児の RS ウイルス感染症の報告数は年々増加しており、年間 10 万例以上が報告されています²。RS ウイルスによる下気道感染は、肺胞および細気管支の感染、炎症を特徴とする重篤で生命を脅かす可能性のある疾患であり³、RS ウイルス感染症の重要なリスク因子として早産児、慢性肺疾患、ダウン症候群、先天性心疾患(CHD)および免疫不全症等の基礎疾患が挙げられています。しかし RS ウイルス感染症による入院の大多数を占めているのは基礎疾患を有さない健康な乳幼児であることから、RS ウイルス感染症は基礎疾患の有無にかかわらず、幅広い小児にとって深刻な健康被害をもたらす重篤な疾患であり、すべての新生児および乳幼児で RS ウイルス感染症の発症を予防することは、公衆衛生上の重要な優先事項と考えられます⁴。

1. Li Y, Wang X, et al. Lancet. 2022;399(10340):2047-64.

2. 堤裕幸. 感染症学雑誌. 2005; 79(11): 857-63.

3. Hall CB. N Engl J Med. 2001;344(25):1917-28.

4. Giersing BK, et al. Vaccine. 2019;37(50):7355-62.

サノフィについて

サノフィは、研究開発型の AI を活用したバイオ医薬品企業であり、人々の暮らしをより良くし、力強い成長をもたらすことに尽力しています。免疫科学領域の深い知見を活かし、世界中の何百万人もの人々の治療と予防を行う医薬品やワクチンを提供し、さらなる貢献のために革新的なパイプラインの構築にも注力しています。「人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する」という使命のもと、医療・環境・社会が抱える課題に真摯に向き合い、社員と国や地域社会にとって前向きな変化を生み出すことを目指しています。

サノフィは、ユーロネクスト(EURONEXT: SAN)とナスダック(NASDAQ: SNY)に上場しています。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。